Monet Fujita
Art Works

藤田 モネ
Fujita Monet

photo:Yoichi Ochiai

Statement

アーティスト。1999 年生
水や青、涙といった記号を中心に様々なメディアとの対話、無意識と意識をソースとした表現と人間の想像世界について探求し、
絵画・立体・インスタレーション等、ジャンルを絞らず、実験的な作品制作を行なっている。

Exibition

・鴉展 (2018 年 8 月)
・AdobeCC 研究室ポストカード展 (2018 年 11 月)
・筑波アートフェスティバル VR ライブペイント (2019 年 5 月)
・浸透展 (2019 年 8 月)
・深夜の美術展 vol17(2019 年 10 月)
・, (カンマ) は美しい (2019 年 11 月)
・エムプラス「明日の呼吸」(2019 年 12 月)
・偶然出会った空白 (2020 年 3 月)
・あそびば展 (2020 年 8 月)
・三人称単数点 (2020 年 10 月)
・デザインフェスタ vol.52
・現在進行点 (2020 年 11 月)
・Meet Up　ライブペイント (2020 年 12 月)
・エムプラス「かさなる足跡」(2020 年 12 月)
・はじめての〇〇(2021 年 4 月)
・デザインフェスタ vol.54
・笑裏蔵刀 (2022 年 3 月)
・Gallery And Links「桜恋展」(2022 年 3 月)
・DigitalFrontier2022 ベストアート部門受賞 (2022 年 3 月)
・生きるとは展 (2022 年 5 月)
・colony(2022 年 7 月)
・404 nobody knows(2022 年 9 月)
・colony vol.2(2022 年 10 月)
・iphone ケース展 (2022 年 11 月)
・白色申告 (2022 年 12 月)
・Paint Reactive　ライブペイント (2022 年 12 月)
・colony vol.3(2022 年 12 月)
・「GINZA COLLECTOR’S CLUB」銀座蔦屋書店 (2023 年 1 月)

Awards

・Digital Frontier GRANDPRIX 2022 ベストアート賞受賞

tabigeininmone.com

« マボロシフタツ »

AMSTERDAM
ACRYLIC

HELLO KITTY

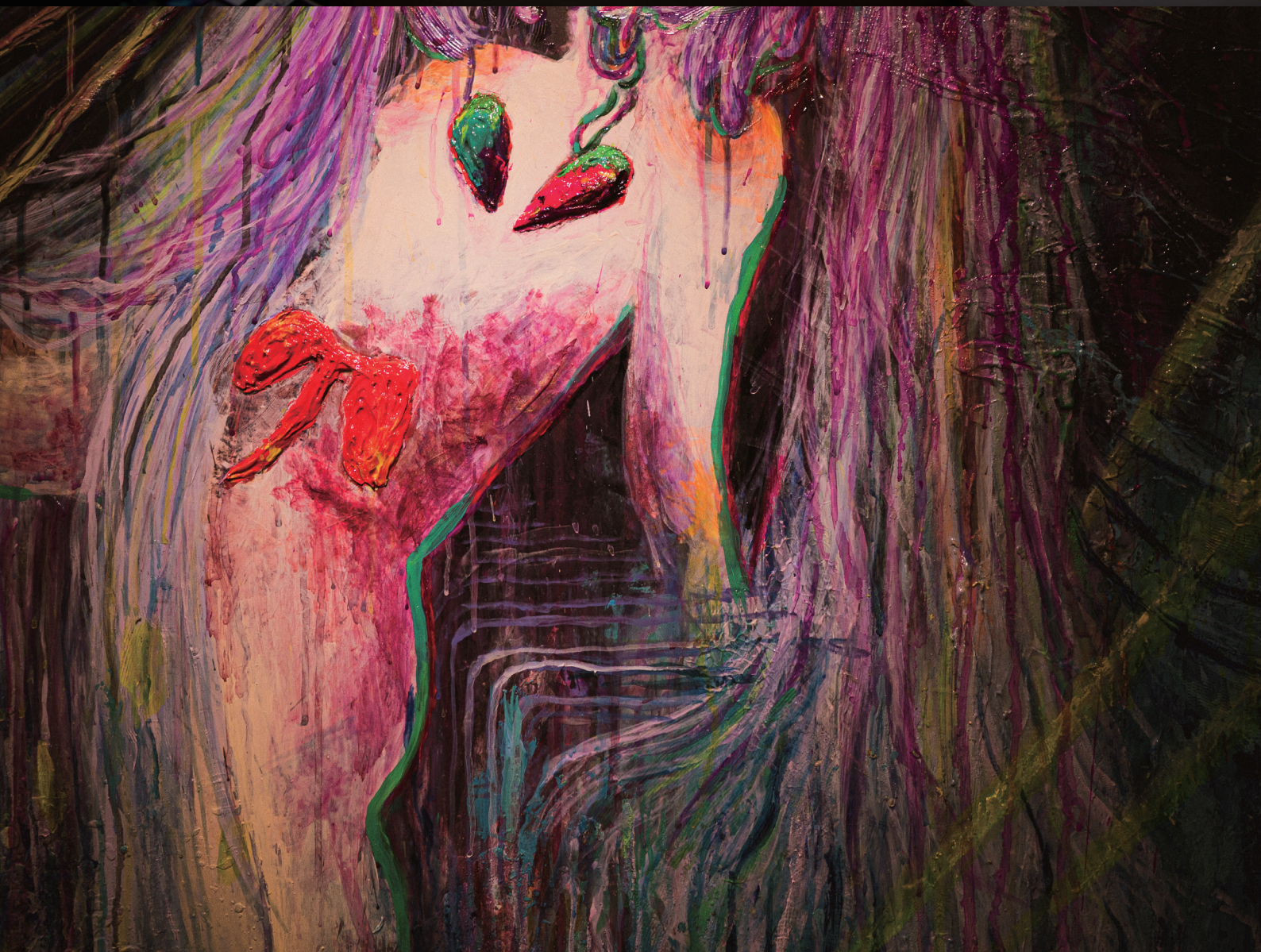
「あまねきシリーズ」

monet.

《穹》
あまねき 2-1

« 響 »

あまねき 1-1



「あまねきシリーズ」

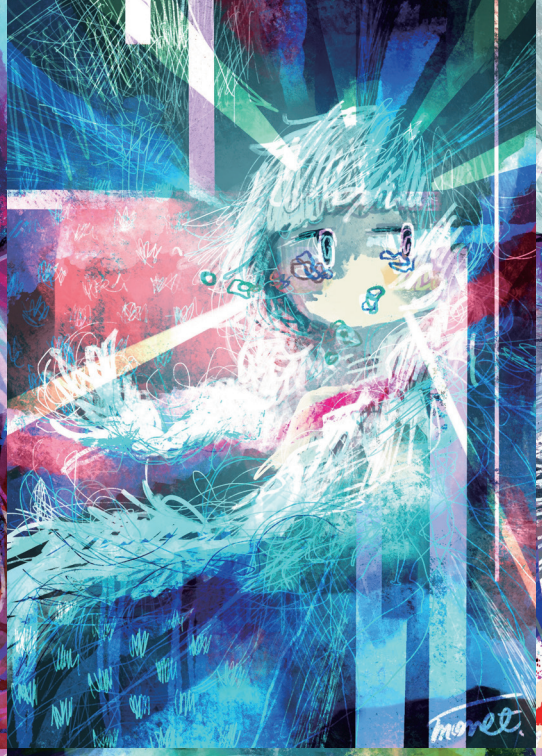
2022.2
1303×970mm / 530×455mm / 227×158mm
Acrylic paint/Digital Print/Wooden panel

自分の意識と無意識な部分の気付き、デジタルを通した時に起こりうる自然現象や原理
また作品を通じた人間の内部共鳴を数百年後にも残していけるのかどうかを試行錯誤し
てどうあるべきなのかを探求していく意思の上で制作を行った。

「作品それ自体が朽ちてしまう事が先か、それともデジタルの自然によって人々の想像が朽ちていくことが先であるのか」
私自身、作品それ自体が残ることが最も重要であるということよりも、人間が想像し続けられる世界であることを願う。
人々が想像できることの豊かさを忘れないために、私は出来る限り作品を繋いで、
誰かが想像するための道標となる作品を探求し続ける。
「あまねき」　広く広く色んな人にこの作品、思いが伝わるように願いを込めて。

展覧会『笑裏蔵刀』/ デジタルハリウッド大学卒業制作
主催：Digital Plastic para la Convivencia
開催日：2022.2
場所：gallery 蔵

作品協賛：デジタルハリウッド株式会社

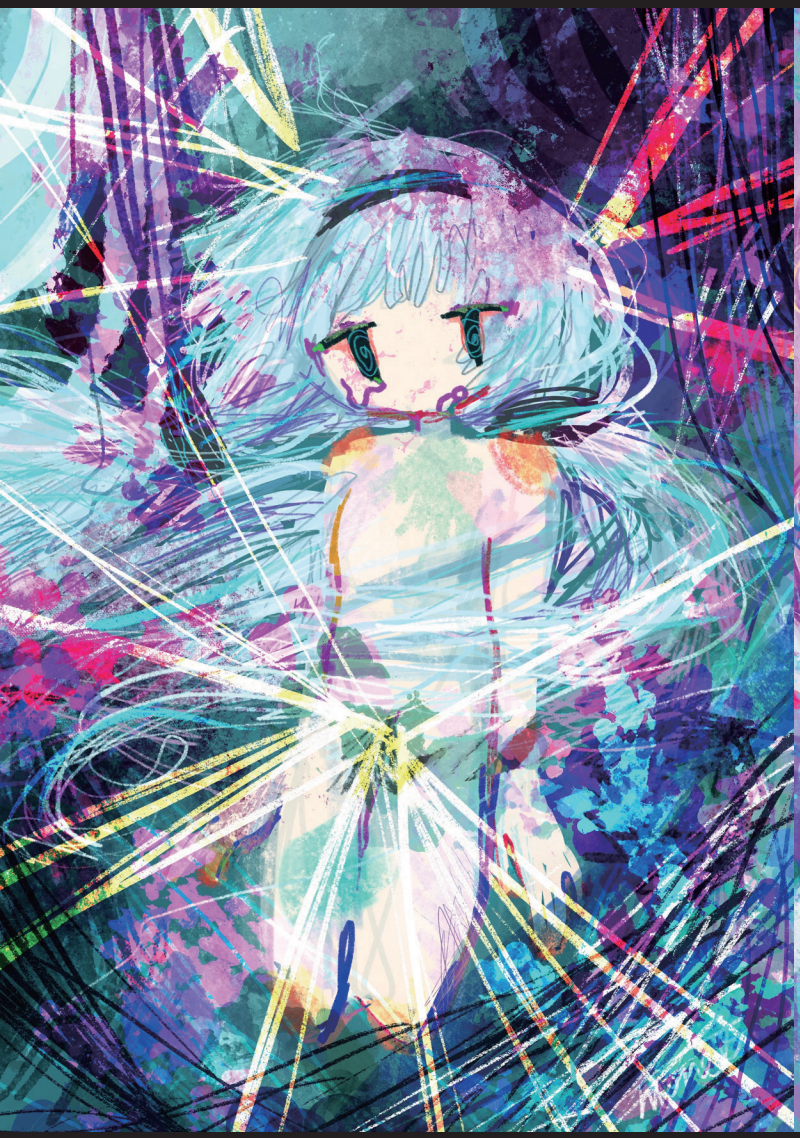


「あまねきシリーズ」2~10

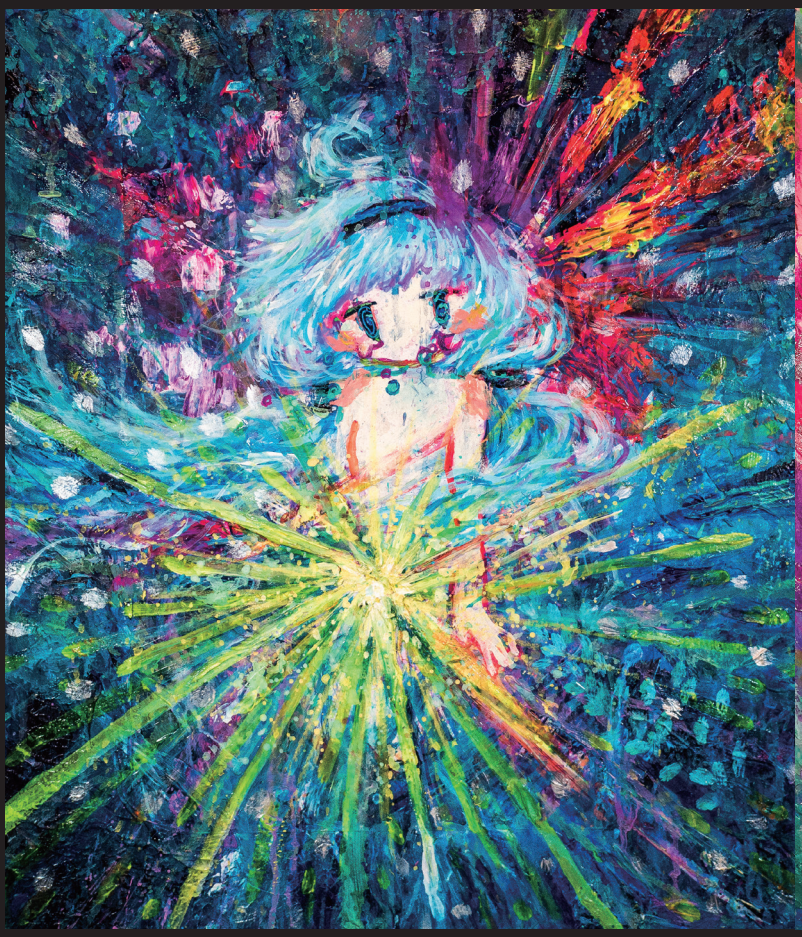
「あまねきシリーズ」11~19

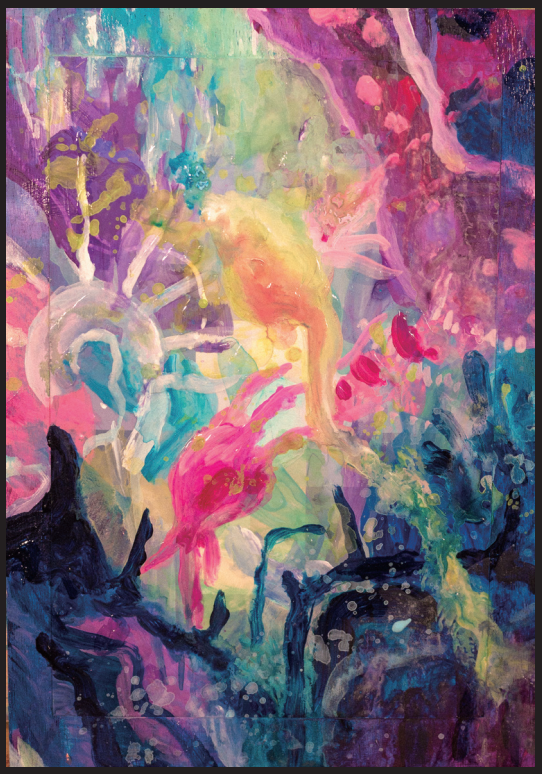
「あまねきシリーズ」2~10

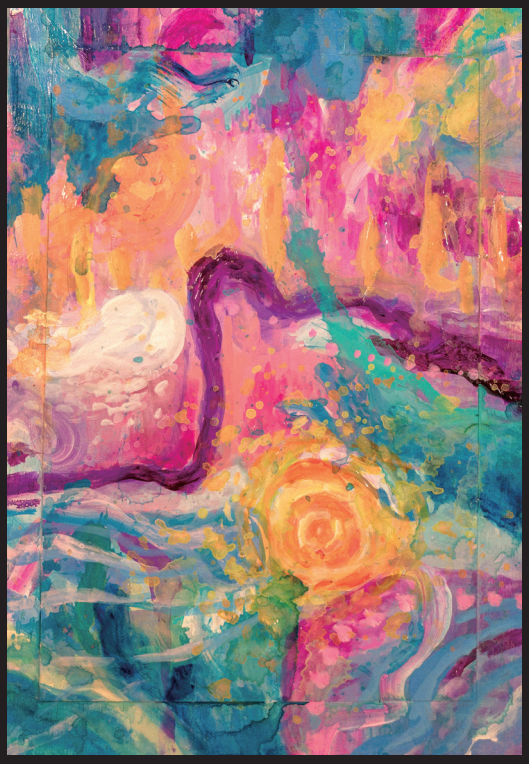
「あまねきシリーズ」11~19



「あまねきシリーズ」20-21







「あまねきシリーズ」20-21

« 人類動物創造物語 »

« 人類動物創造物語 »

2022.7
530×455mm / 227×158mm / 220×160mm
Acrylic paint/Wooden panel

アイルランドの民間伝承「Tír na nÓg ft. Oonagh」（ティル・ナ・ノーグ）という妖精の国の物語と日本民話の「浦島太郎」の物語が類似していることに着目しました。
私自身のヒトとして生かされている違和感と対話し、無意識下の創造性について思考し自身のキャラクターコンテンツと交えて制作を行いました。

展覧会『colony』
主催：藤田モネ / 阿部穂香
開催日：2022.7
場所：cafe slow

「Dryas」

2022.9

1500×2100mm

Acrylic paint/Digital Print/Wooden panel/Crayon/Watercolor Pencil

展覧会『colony vol.3』
主催：藤田モネ（colony 運営グループ）
開催日：2022.12
場所：cafe slow(国分寺)

« 内臓容量 »

2022,728×1030mm,Acrylic paint/Digital Print/Wooden panel/Crayon

«京宮テルの記憶»

2022,728×1030mm,Acrylic paint/Digital Print/Wooden panel/Crayon

「解像内臓容量シリーズ」

2022.9
728×1030mm
Acrylic paint/Digital Print/Wooden panel/Crayon

デジタル上で意識的に生み出した人類の記憶というものは　デジタル自然原理によって失ってしまう。
過去自分が生み出した解像度の高い人物がいる。
彼女は必要とされ生み出されたはずが、誰の記憶にも残らないまま解像度を殺して生きている。
人類の創造性と記憶障害性を探りながら線を描くことで　彼女の記憶を辿って会話をしようと試みる。生きていないからどんなに痛みつけても嫌われても彼女に影響はないんだろうけど、彼女の気持ちを知ってみたかった。

彼女自体が朽ちるとき、それはデジタルの自然原理による人類の記憶欠損と想像欠損が重なった時。

私たちは一体何を持ってして記憶と想像を結びつけているんだろう。
会話のしない彼女の記憶を辿りながら人類の創造性について探究してみる。

展覧会『404』
主催：Digital Plastic para la Convivencia
開催日：2022.9
場所：元映画館

« 隠 - 昇 »

« 隠 - 生 »

« 隠 - 町 »

« 隠 - 星 »

「隠れシリーズ」

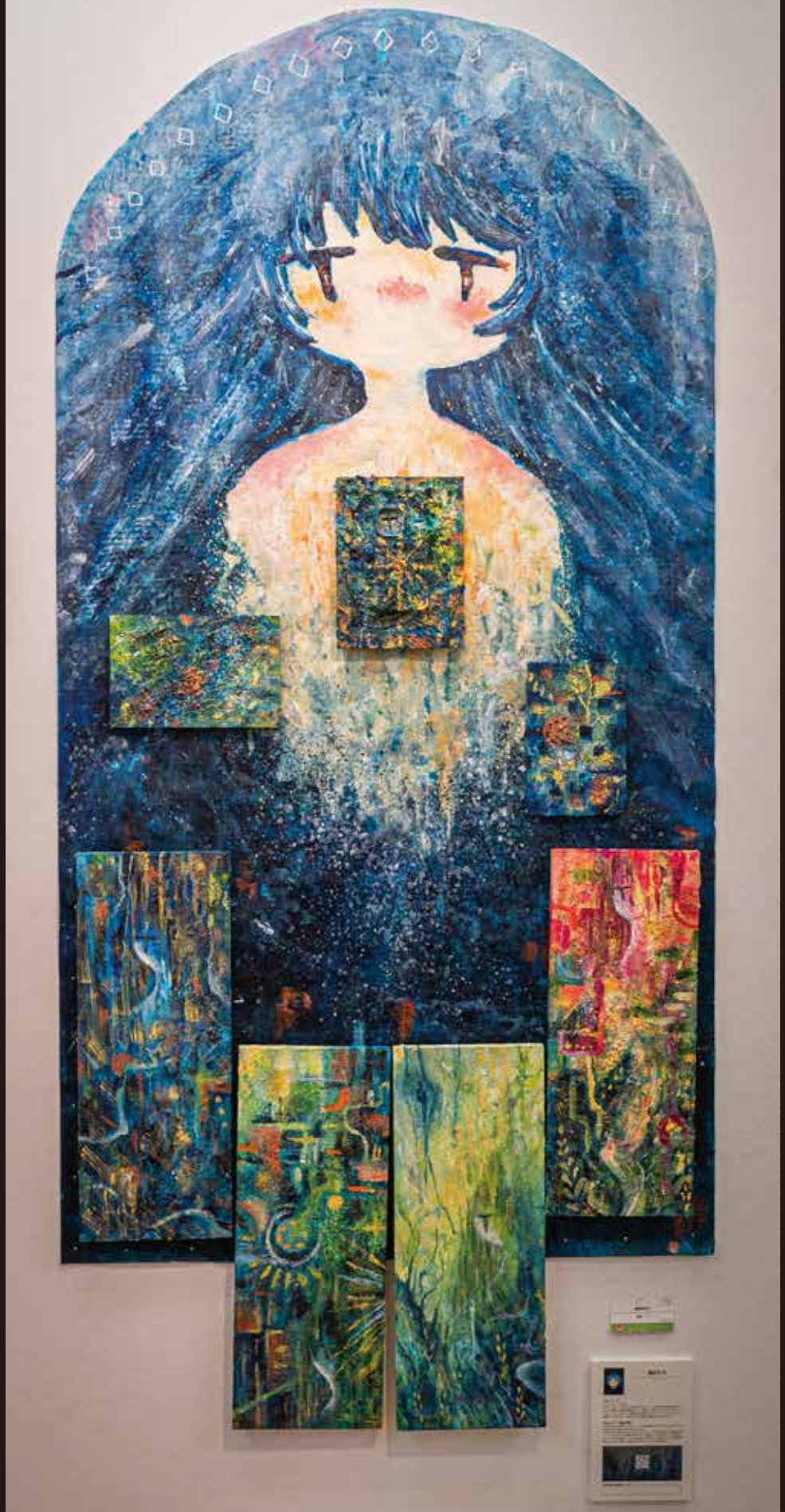
2022.10
215×550mm/215×530mm
Acrylic/Cement/Wooden Board/Watercolor Pencil/Crayon

「どこかに隠れたくもなる」そう思ったのは 2022 年の 9 月だった。

少しでも残る人の暖かさを感じたかった私は、とある公園に行き、木を触った。その時手に残る温かみのある感触を感じた。なんとなく、この形を自分の作品に取り入れたかった。

自分の実家はコンクリートを多く使われており、コンクリートにうつる木の木漏れ日が好きだった。その素材であるセメントを使って実験的な作品を制作した。
セメントを用いることによって、自分の手で意図的に作らない、自然に任せたひび割れといった形を生成することができた。

展覧会『colony vol.2』
主催：藤田モネ（colony 運営グループ）
開催日：2022.10
場所：本で旅する Via



« 痕跡の祈り »

2022.11
910×2000mm
Acrylic paint/Paper/Crayon/Cement

iphone ケースを用いた展覧会「iphone ケース展」に出展参加した作品。

手に取れるものは壊れゆくもの、デジタルの世界は忘れ去られてしまうもの。
気付かぬうちに記憶から忘れ去られてしまう。

iPhone の痕、身体の痕、私の作り上げるマチエールはどれも自身の無意識に存在していた忘れ去られた記憶の材料になる。

痕跡というものは私にとって意識下にないコアな部分を補填してくれる神様のような尊いものに感じる。
作品の軌跡を辿りながら、その神様と一緒に思考を巡らせていたような気がする。

展覧会『404』
主催：Digital Plastic para la Convivencia
開催日：2022.11
場所：3331 Arts Chiyoda

« 創葉 » « 染霧 » « 淡香 »

« 響林 » « 風輪 »

2022.3

455mm×530mm,230mm×180mm,420mm×320mm
300mm×330mm,455mm×530mm

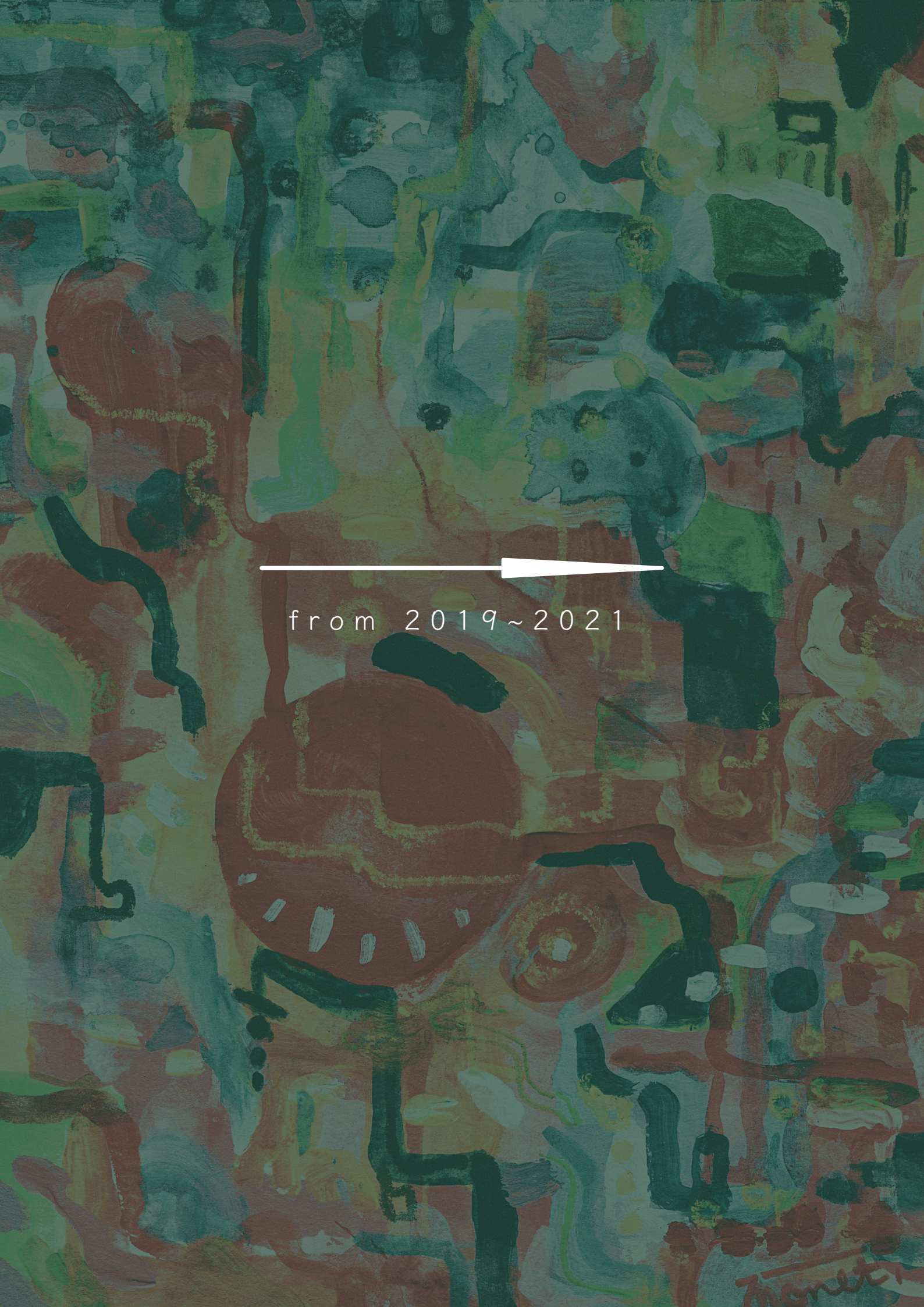
Water color/Acrylic paint/Paper

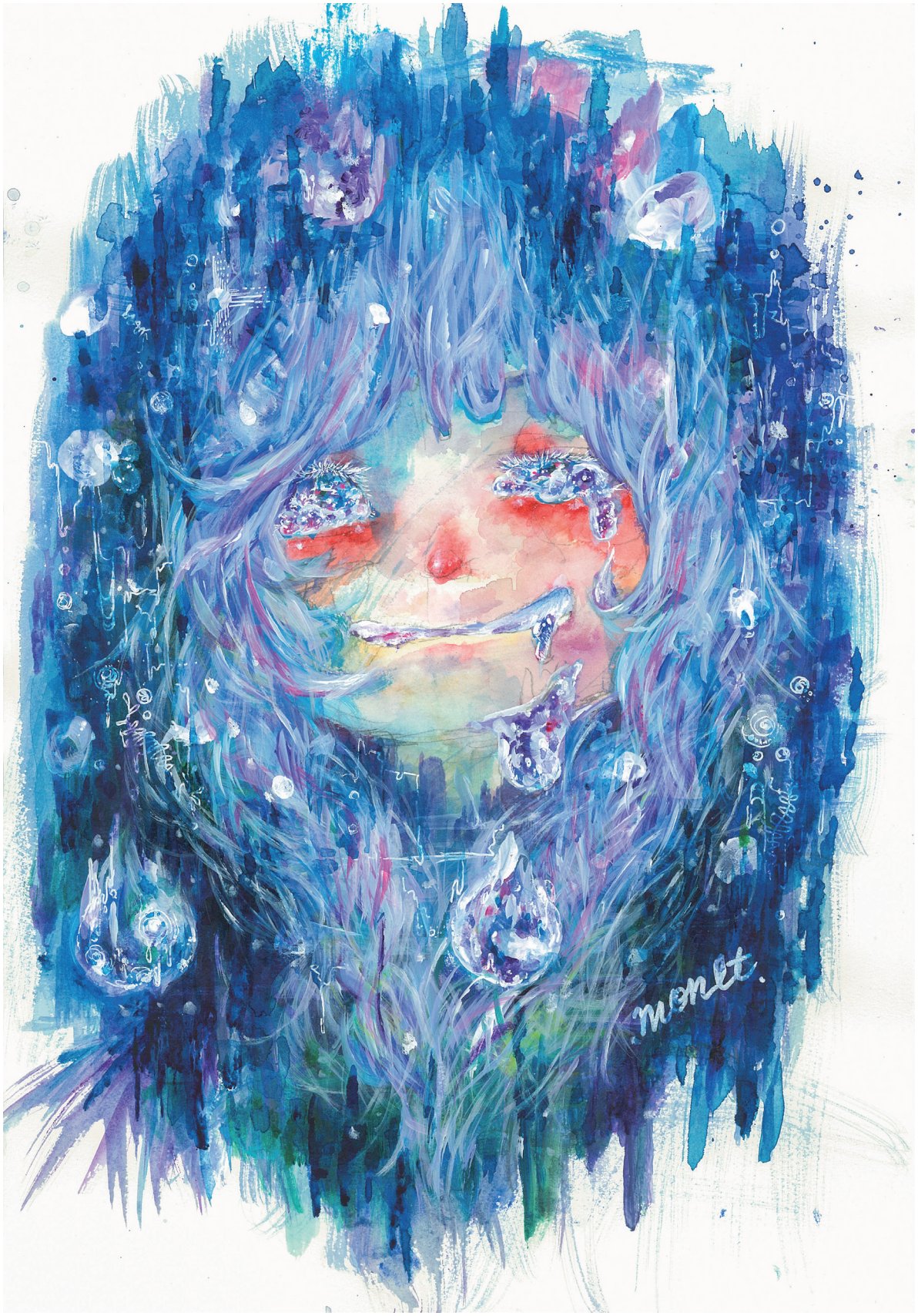
展覧会『桜恋展』

主催：Gallery and Links

開催日：2022.3

場所：Gallery and Links（銀座）


from 2019~2021



« 見て »

2019.7

268mm × 386mm

Water color/Acrylic paint

«見すぎちゃった»

2019.9

268mm×386mm

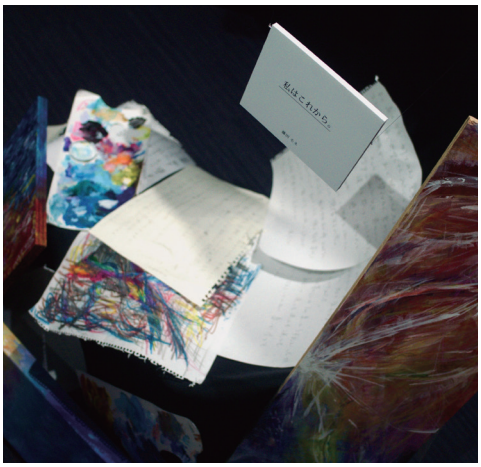
Water color/Acrylic paint

«私はこれから»

2019.8

1000mm×2700mm

Mixed Media



展覧会『浸透展』
主催：HAT.
開催日時：2019.08/05-08/07
場所：デジタルハリウッド大学内ラウンジ
内容：作品展覧会

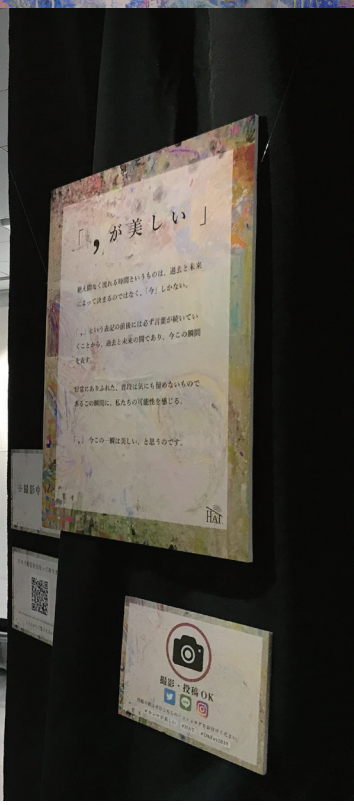
デジタルハリウッド大学では学生が自ら作品制作したものを発表する場が全く無かったことから、自らで制作を通して発信する場を作りたいという思いから作品制作と展覧会やイベントを中心とする「HAT.」というプロジェクトグループを制作。
その一番最初の作品展覧会として、「浸透展」を開催。

この展覧会をきっかけに、今後デジタルハリウッド大学内で学生が主となって展覧会やイベントを行うことや、自然と作品を中心に多くの人々と会話したりといった自然の流れが生まれることを願い、「浸透」というテーマで行った。

« 無題 »

2019.11

デジタルハリウッド大学という、アナログペイントを行ったことのない環境の中で、絵を自らの手で描くことで、お互いのことを知ることが出来るのではないか、また自らと対話をすることができるのではないかという模索の元、自らがプロデュースしている作品制作と展覧会やイベントを中心とする「HAT.」のメンバーでペイントを行った。



『 , は美しい』

前回に行ったライブペイントで制作した作品らと共に、作家の作品の展示と、その場でライブペイントを行った。

絶え間なく流れる時間というものは、過去と未来によって決まるのではなく、「今」しかない。

「,」という表記の前後には必ず言葉が続いていくことから、過去と未来の間であり、今この瞬間を表す。

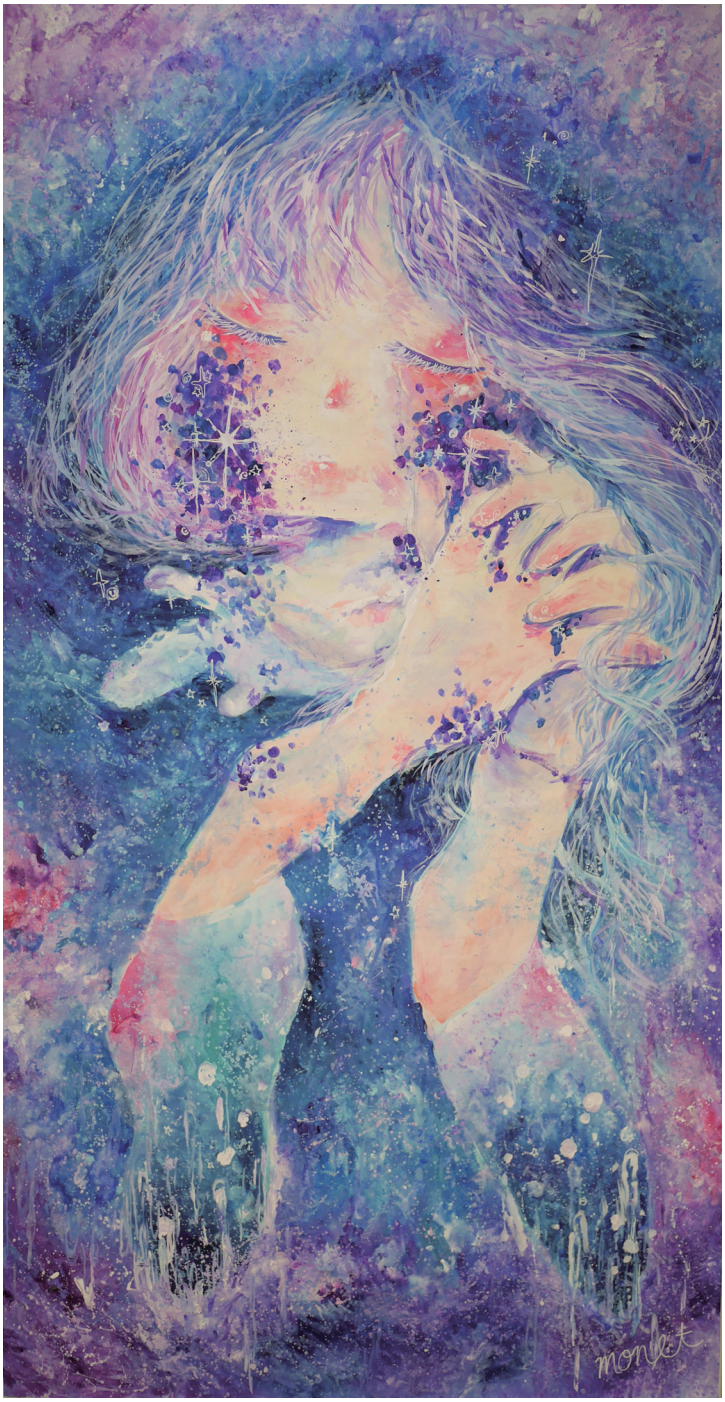
日常にありふれた、普段は気にも留めないものであるこの瞬間に、私たちの可能性を感じる。

「 ,」今この一瞬は美しい、と思うのです。

開催日時 :2019.11.30-12.01

場所：御茶ノ水ソラシティ三階デジタルハリウッド大学内教室

内容：作品展示、ライブペイント、（インタラクティブアート）



« そえる Ⅰ »

2019.11

2000mm×1000mm

Mixed Media

« そえる Ⅱ »

2019.11

2000mm×1000mm

Mixed Media

《咲き心地がいい》

2019.12

2000mm×1000mm

Mixed Media

展覧会『明日の呼吸』

主催：エムプラス

開催日：2019.12.17-2019.12.22

場所：デザインフェスタギャラリー

« 月を指差しすると耳が無くなってしまうよ »

2020.1

2000mm × 1000mm

Mixed Media

« 月指し »

2020.3

2000mm×1000mm

Mixed Media

展覧会『偶然出会った空白』

主催：HAT.

開催日：2020.3

場所：デザインフェスタギャラリー

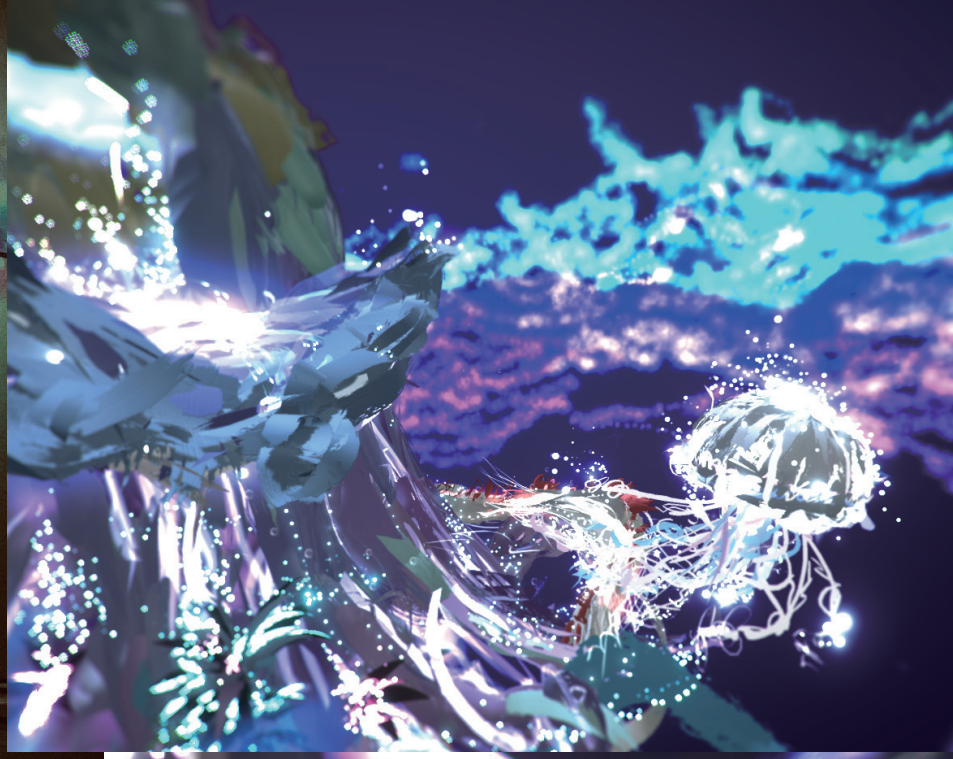
「もしAIが逸話を信じてしまうようになったら、
私達は絵を描き続けていくべきなのだろうか」

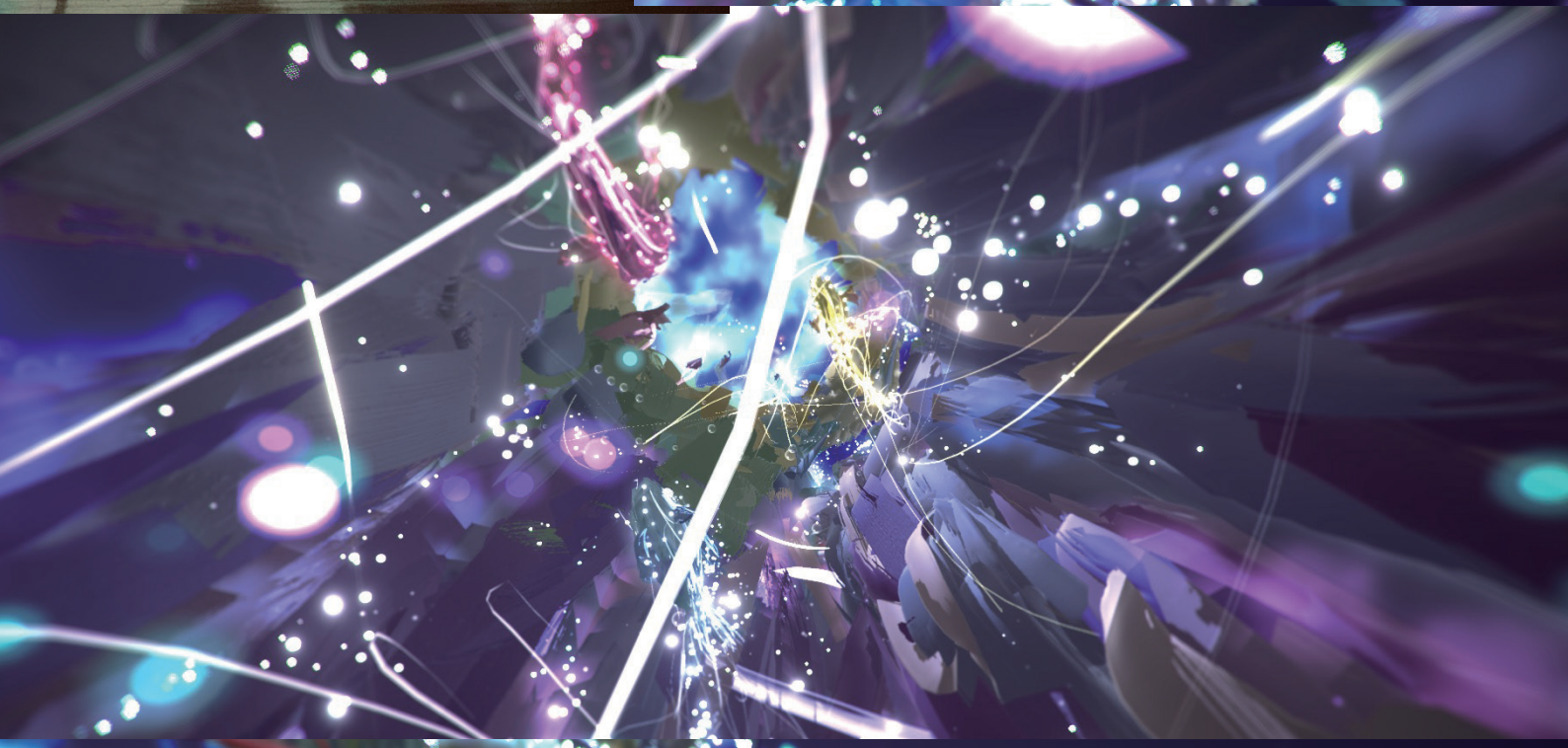
« 無題 »

2019.1

455mm×652mm

Oil Paint / Acrylic paint / Acrylic plate



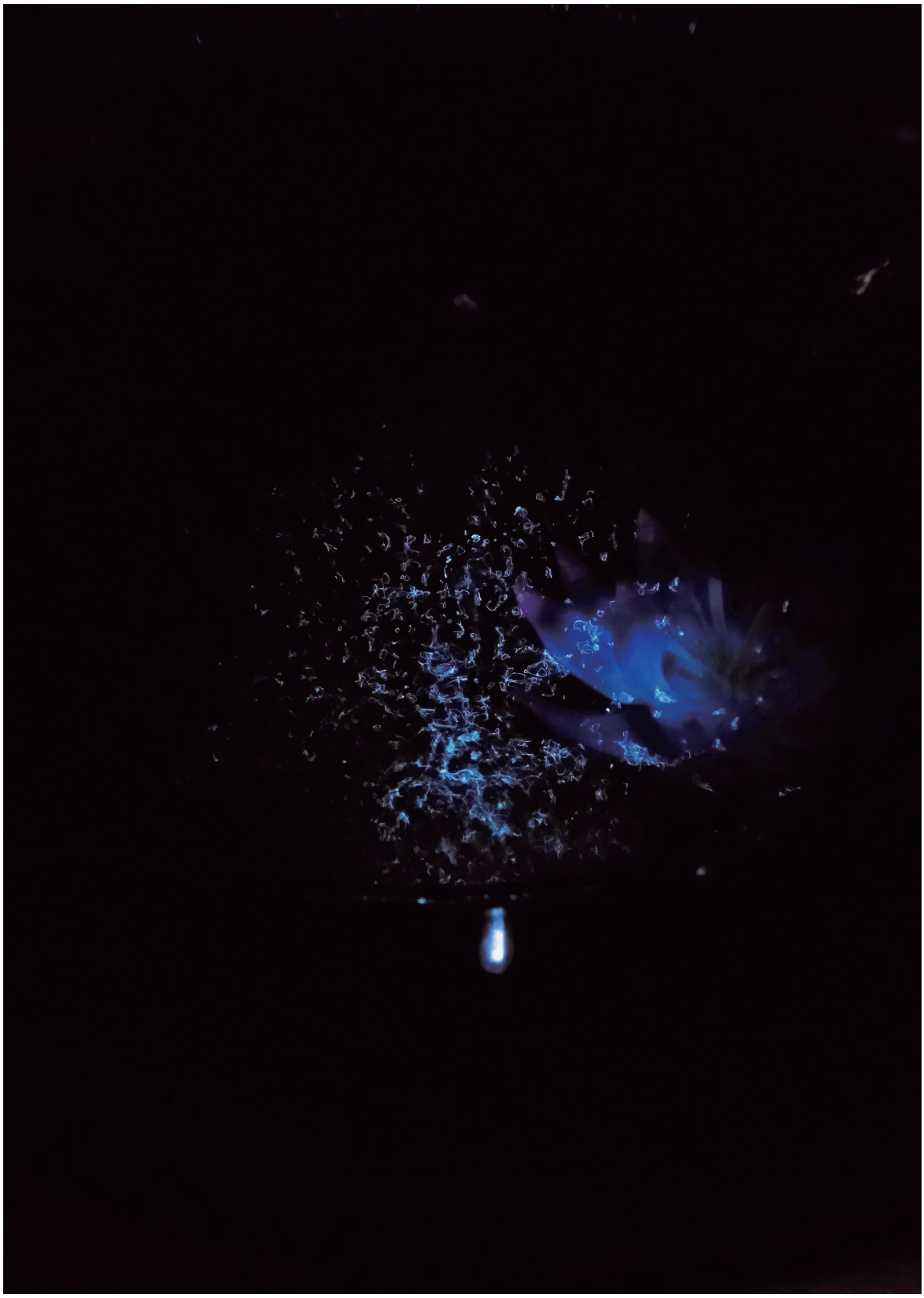


« 空想世界 »

2019.5

VR / Tilt Brush

筑波市で行われたメディアアートを中心としたアートフェスにデジタルハリウッド大学生として出展した際に、VR アートを用いてライブペイントを行った。



« 純水 »

2018.8

400mm×580mm

Water / Sound / Mixed Media

«ゆくままに»

2020.4

268mm×386mm

Acrylic Paint

『Drawing Hat Home』project

「新型コロナウイルスによって外出の自由は制限されたが、想像して作品を作る自由は制限されない。
みんなで作品を繋げて楽しもう！」
をコンセプトに、2020 年 4 月から HAT. が展開するプロジェクトです。
毎日夜 7 時に、HAT. の公式 Twitter、Instagram、Facebook にて、前日の人の作品からインスピレーションを受けた上で作品制作を行って投稿しています。現在約 600 作品まで登り、その一番最初の作品がこの、「ゆくままに」です。今後、制作する人が自分の思うままに作品を制作してくれる事を祈願って描きました。

«刹那»

2020.5

300mm×155mm

Acrylic paint

«着飾らない金魚鉢»

2020.5

130mm×185mm

Water Color

≪鯨の鳴くまま≫

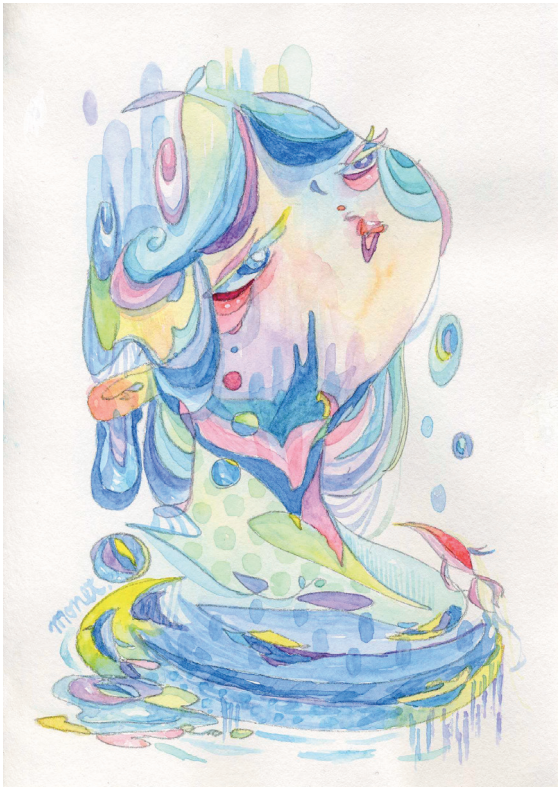
2020.5
130mm×185mm
Water Color

≪MIる≫

2020.5
130mm×185mm
Water Color

≪砂の上の混惑≫

2020.5
130mm×185mm
Water Color



≪静寂の雨脚≫

2020.5
130mm×185mm
Water Color

≪共生≫

2020.5

130mm×185mm

Water Color

≪儚き瓶≫

2020.5
130mm×185mm
Water Color

≪滴る日差し≫

2020.5
130mm×185mm
Water Color

≪高尚の花≫

2020.10
130mm×185mm
Water Color

≪愛憐の風≫

2020.10
130mm×185mm
Water Color

« 共同体 »

2020.5
130mm×185mm
Acrylic Paint

« 自己の滴り »

2020.5
130mm×185mm
Acrylic Paint

« 甘いの間違い »

2020.6
297mm×210mm
Acrylic Paint

« 紅の日 »

2020.6
297mm×210mm
Acrylic Paint

«今宵はありがとう»

2020.6
297mm×210mm
Acrylic Paint

«source»

2020.7
297mm×210mm
Acrylic Paint

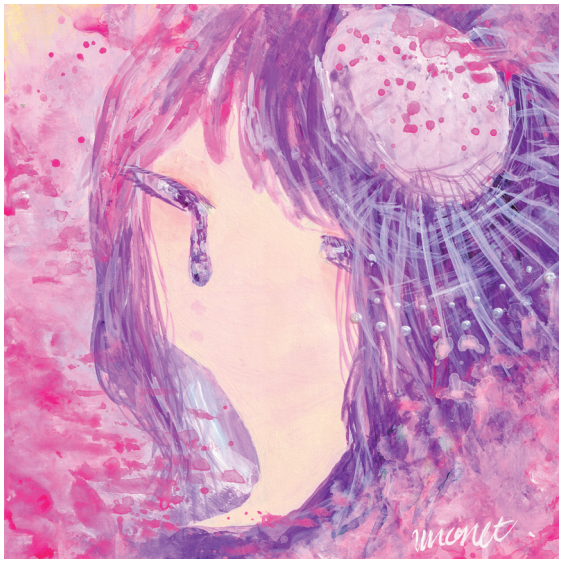
« 水寂 »

2020.10
88mm×210mm
Acrylic Paint

« 羨水 »

2020.10
88mm×210mm
Acrylic Paint

« 電信 »

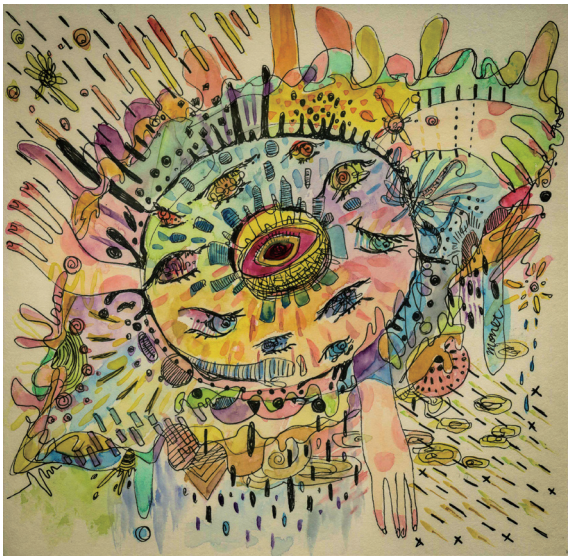


« 最後の最期まで »

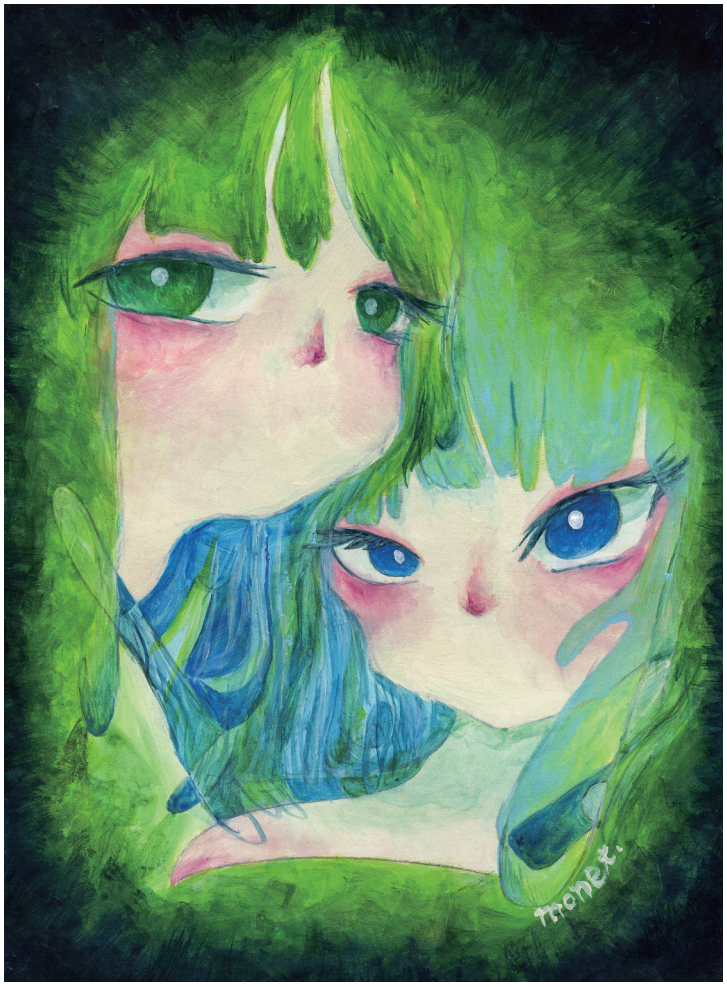
« 万華鏡 »

« 美味 »

« 星屑の子 »

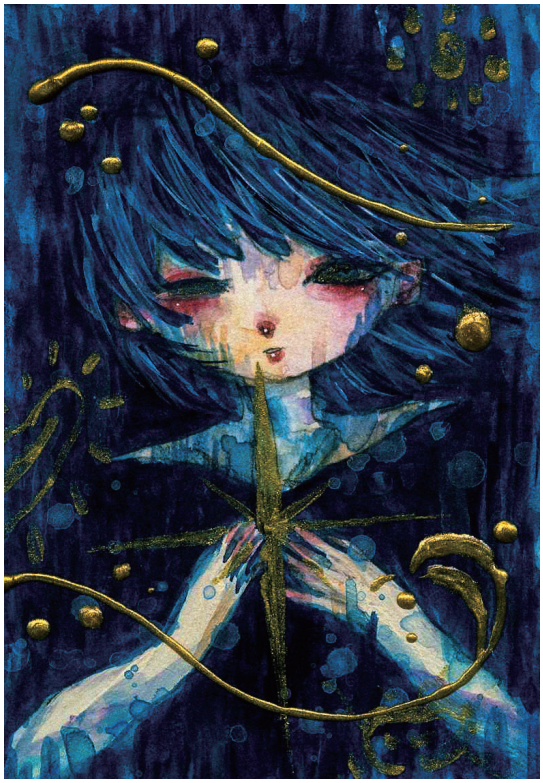


« 眼孔開花 »



« 双葉 »

« 仮想空間 »



« 星の子 »

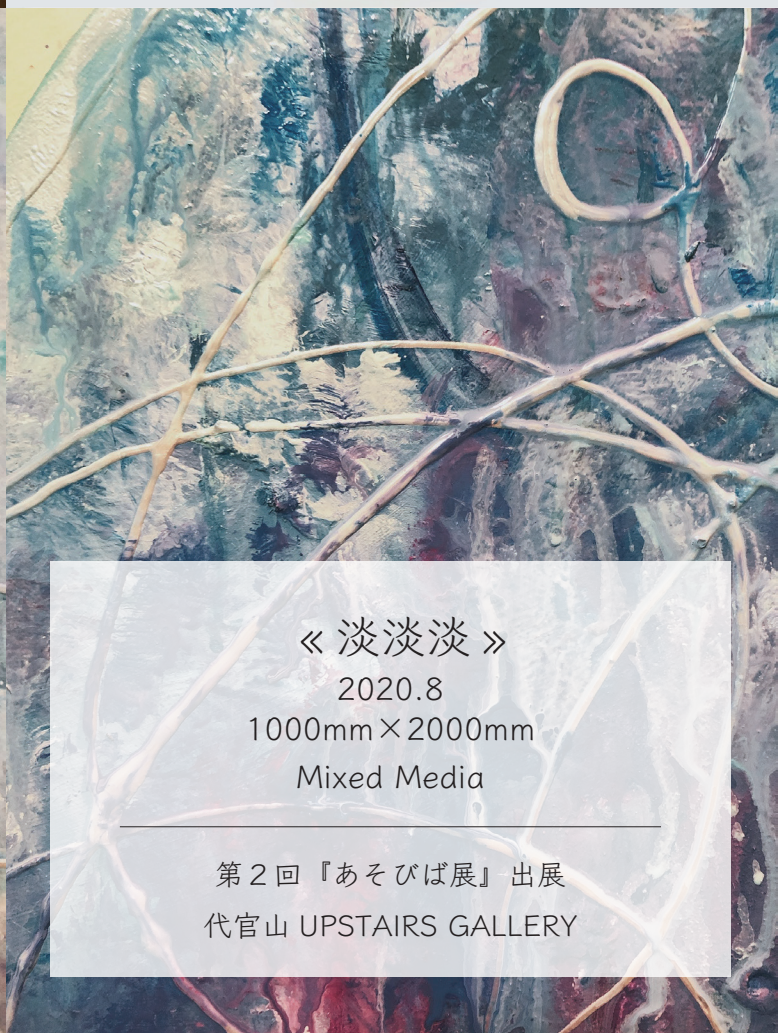
« 天使の涙 »

≪静鳴≫

2020.11

1620mm×1303mm

Mixed Media



≪淡淡淡≫

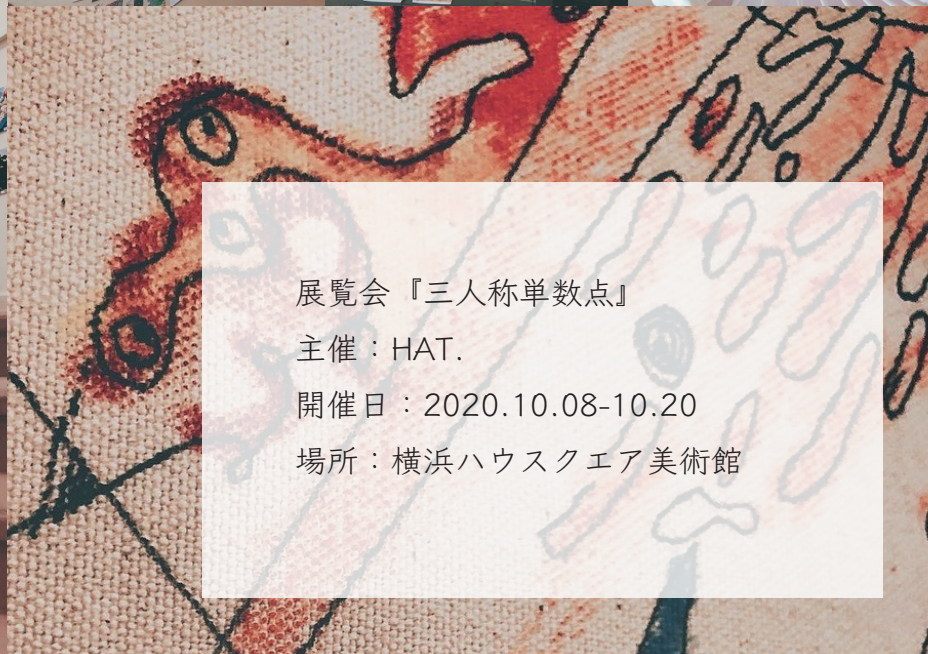
2020.8

1000mm×2000mm

Mixed Media

第２回『あそびば展』出展

代官山 UPSTAIRS GALLERY



展覧会『三人称単数点』

主催：HAT.

開催日：2020.10.08-10.20

場所：横浜ハウスクエア美術館

« 創造 »

2020.12

4000mm×3000mm

Acrylic Paint

『Meet Up』　ライブペイント参加

« 光陰流水 »

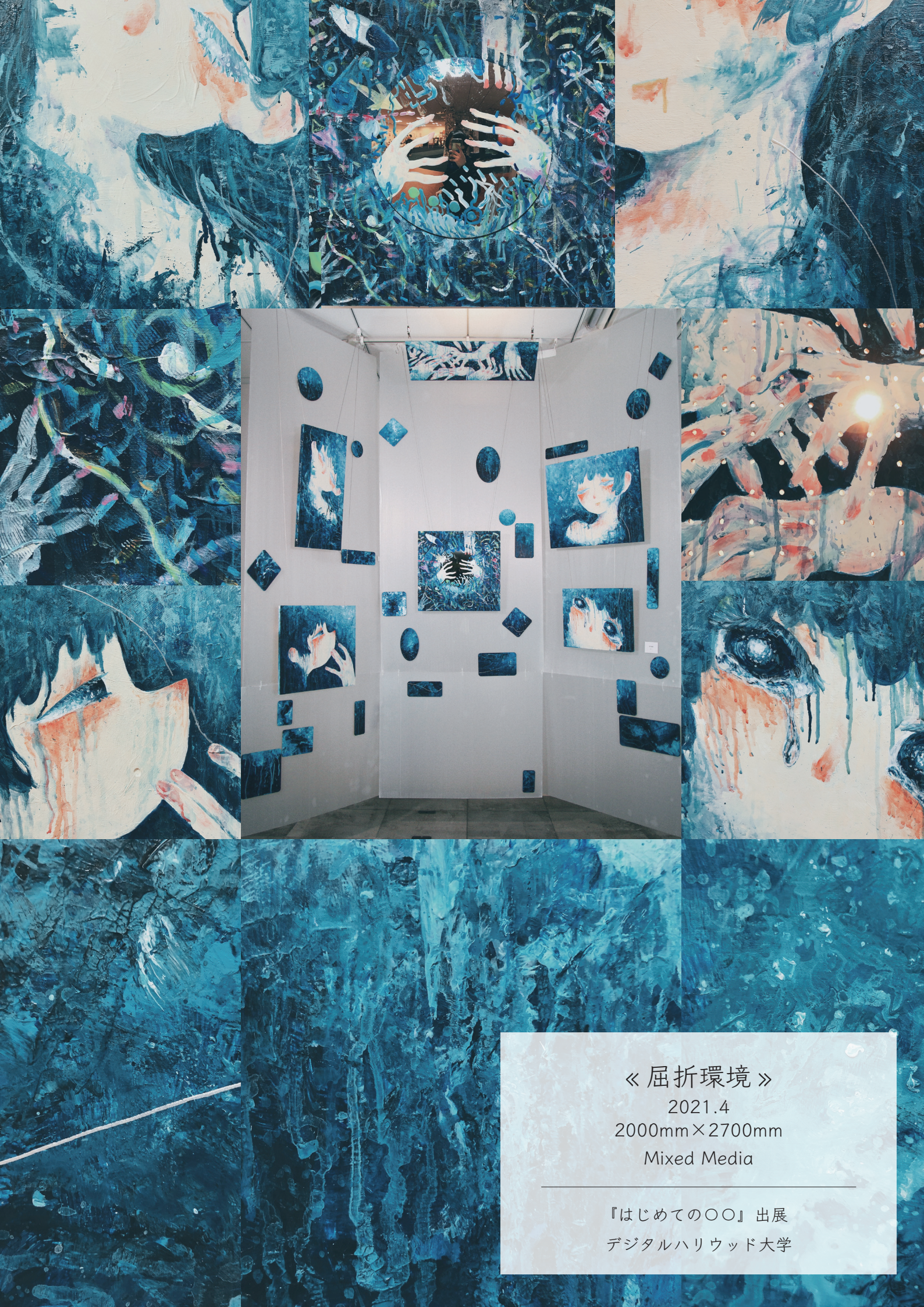
2020.12

2000mm×2000mm

Mixed Media

エムプラス『かさなる足跡』出展

デザフェスギャラリー



« 屈折環境 »

2021.4

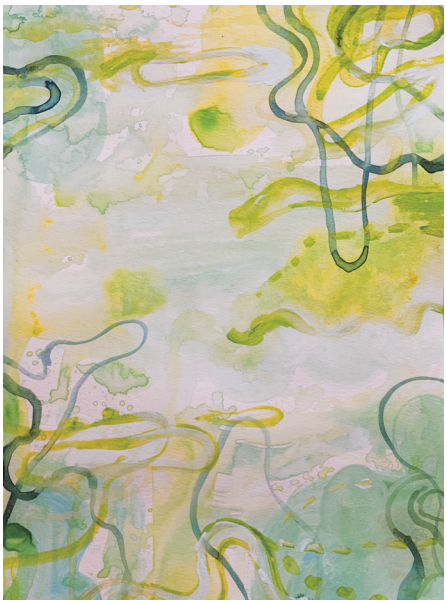
2000mm×2700mm

Mixed Media

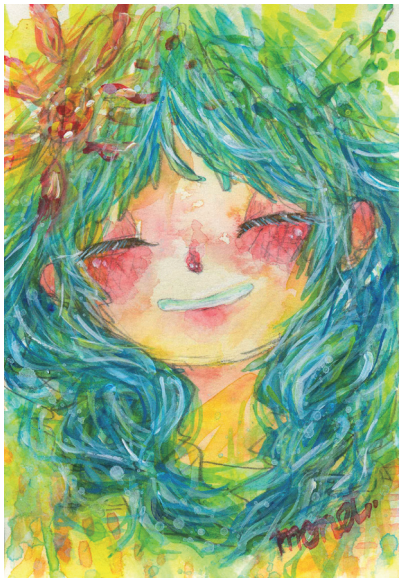
『はじめての〇〇』出展

デジタルハリウッド大学

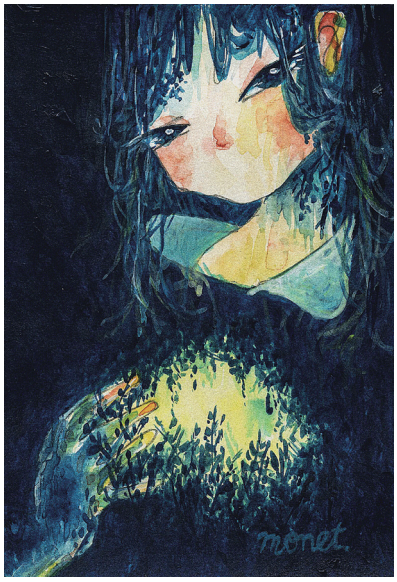
« おまじない »



« ささいな »



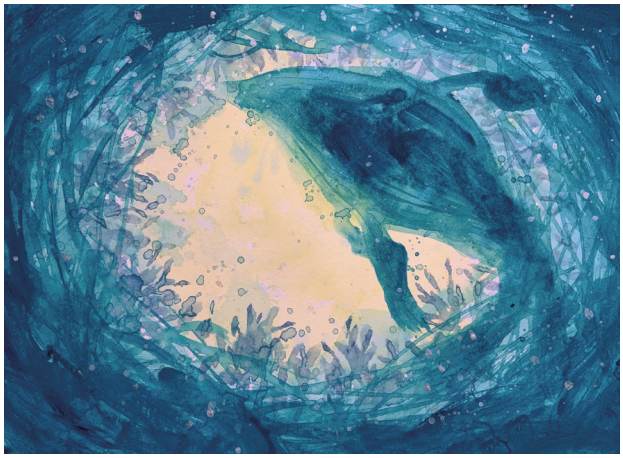
« 見て »



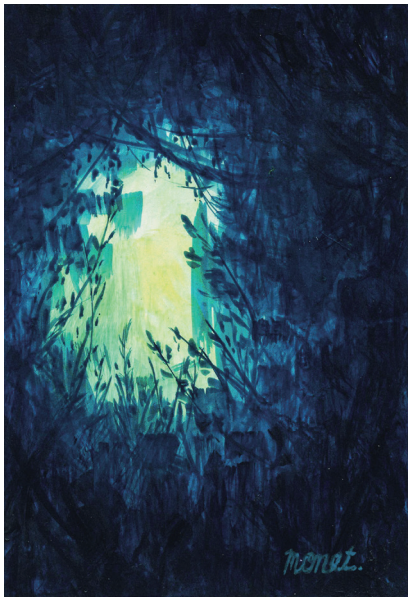
≪新緑を紡ぐ≫

« 無題 »

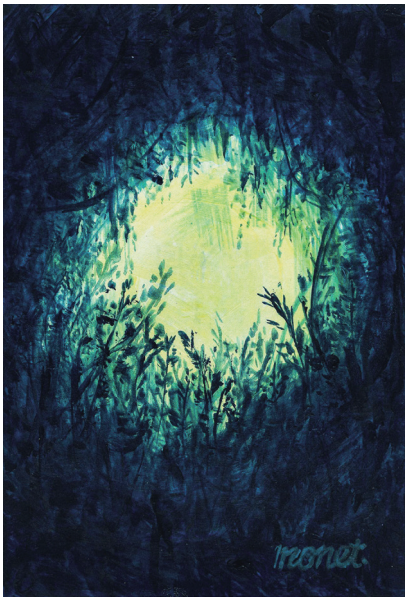
« 霧 »



« 水翼 »

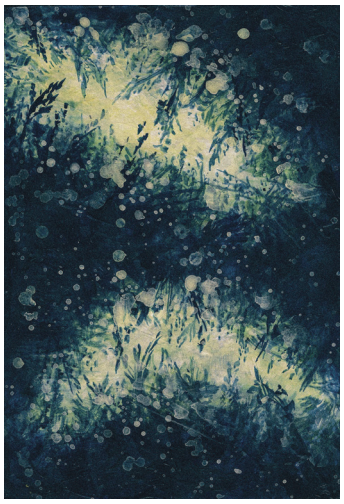


≪光彩を求めて Ⅰ≫



≪光彩を求めて Ⅱ≫

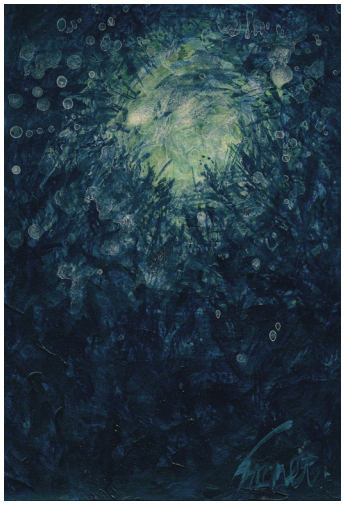
≪光彩を求めて Ⅲ≫



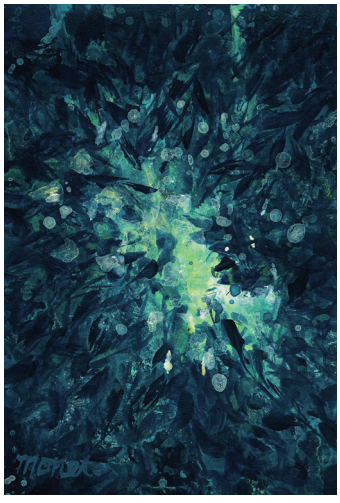
≪交差する時≫

≪光彩への道 Ⅰ≫

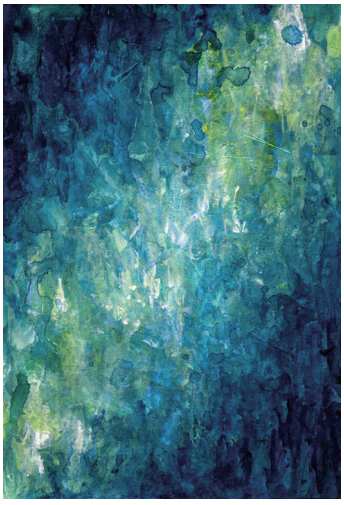
≪光彩への道 Ⅱ≫



≪海底の森≫

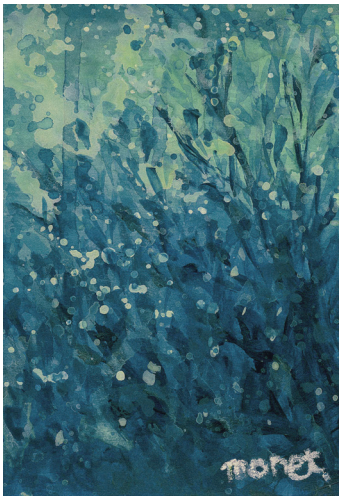


≪天井の彼方≫



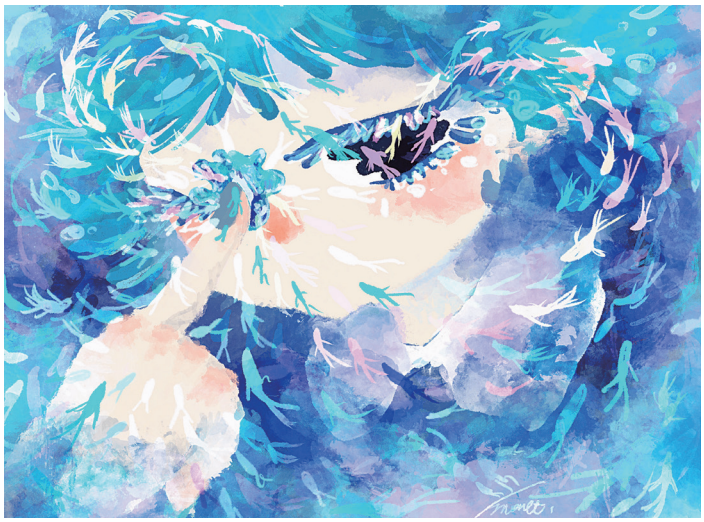
≪霧降林≫

≪軌跡の光≫



≪根付く息≫

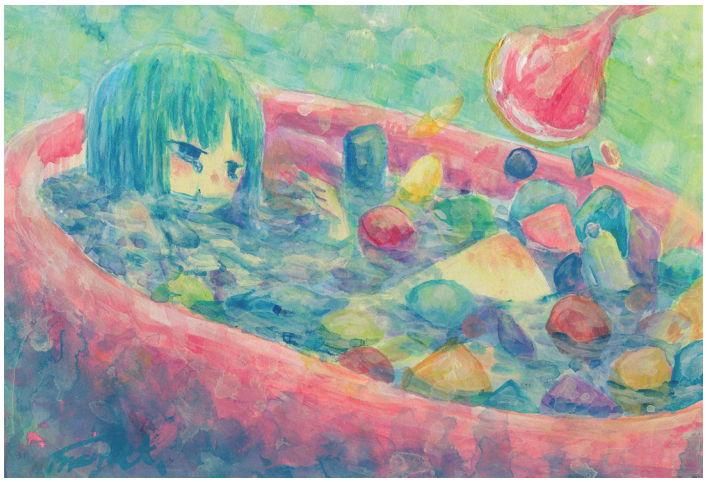
≪祈り≫



≪見て≫

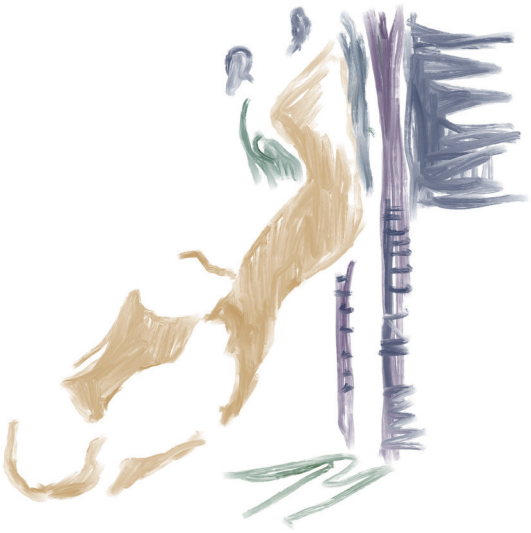
≪密な匂い≫

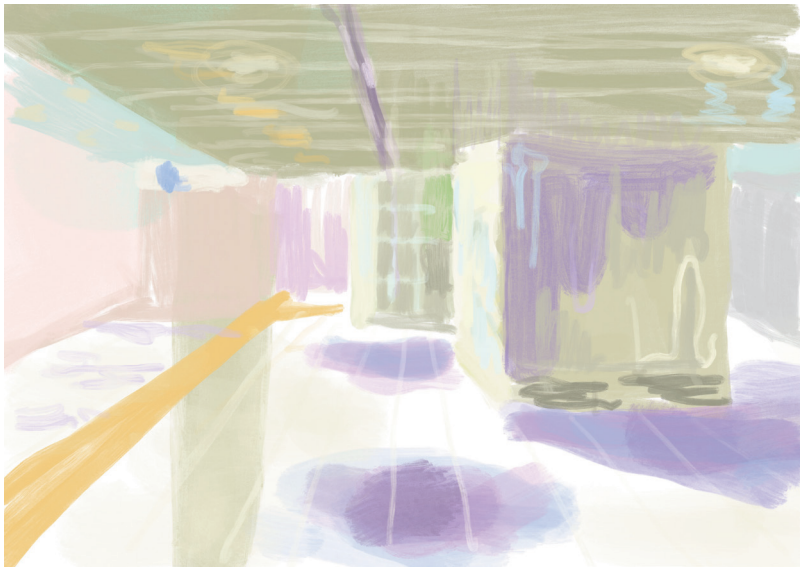
≪視≫

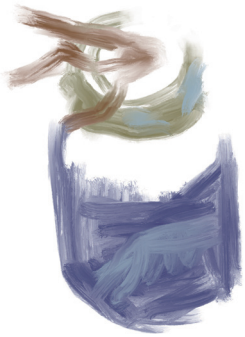


≪bus≫

≪黄金色の頂上≫







«テクノロジードローイング»

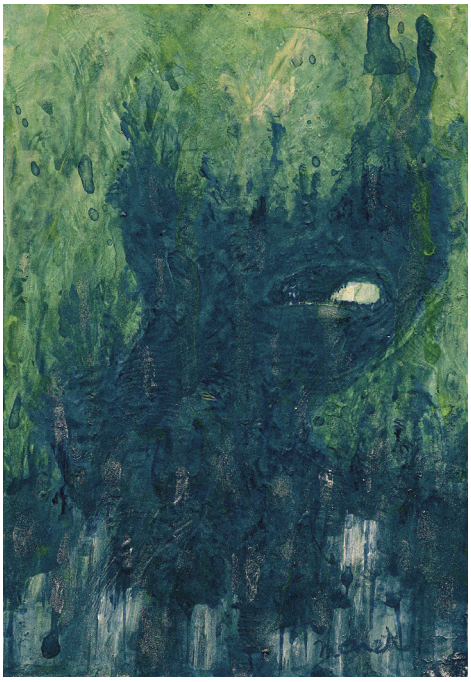
2021.1-2

≪その日，お月様が落っこちた≫

2021.1

100mm×148mm

Acrylic paint

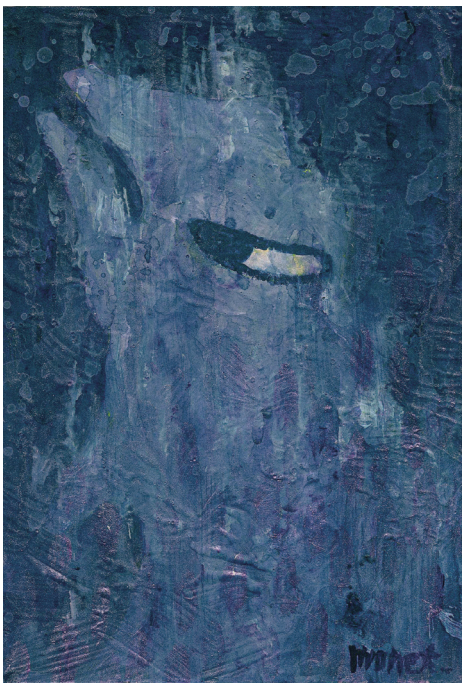


≪佇む≫

≪清澄な眼差≫

≪眠りの夜≫

≪「αiα≫



≪湿り気の風≫

« 偏 »

2021.9

210mm×297mm

Acrylic paint

« 染 »

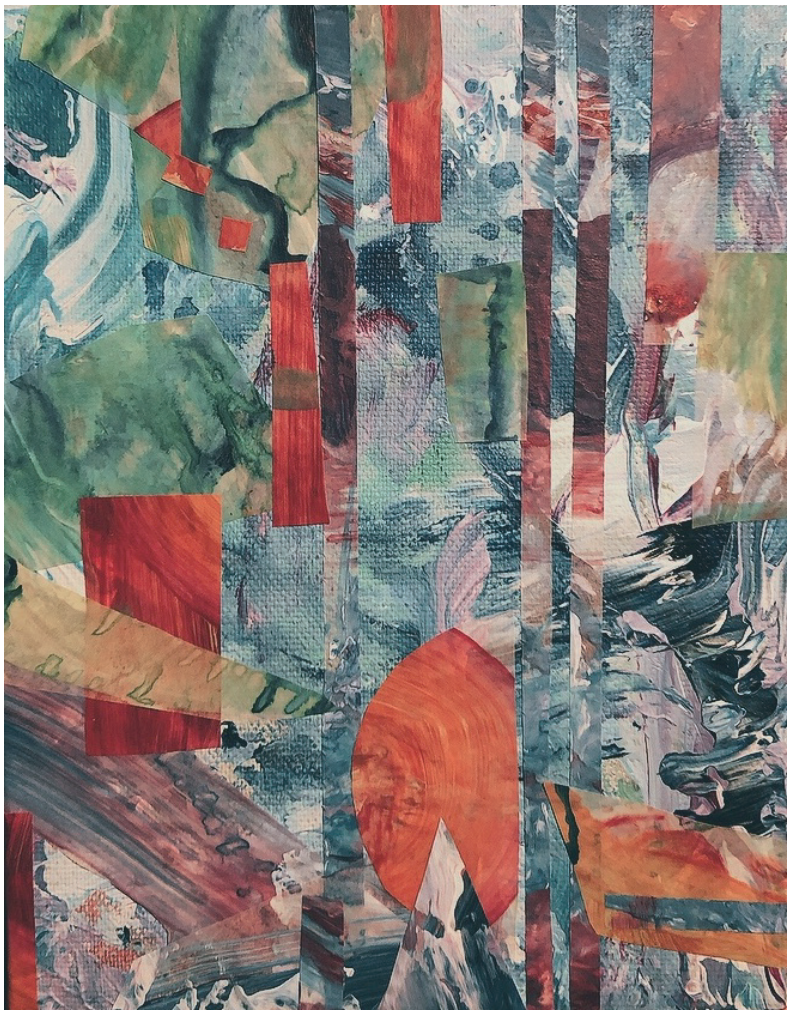
2021.11

100mm×100mm

Acrylic paint

« 破片 »

2021.9

140mm×180mm

Mixed Media